

## カウントダウン③続・明日への遺言「座右の三冊」

企業経営漫談士 岡野実空

コラム第2走へのバトンパスまで、残るは4回。ここから3回は、先の本編150号を終える直前に書いた、「明日への遺言」1～3の続編。幸いそこから3年余り生き延び、寄り道のコラム(計50号)を経て本道に戻りましたので、その間の気づきを加筆します。まずは「経営本」に関する遺言から。

### その1:『ゼミナール経営学入門』

伊丹・加護野共著『ゼミナール経営学入門』初版が発刊されたのは、我が転職直前。またその要所ごとに図式化された大先達の読書ノートに驚嘆し、メモを取りつつ精読したのは転職後のことでした。

そしてその3版をテキストに、各社でミドル対象の経営セミナーを始めたのは還暦後。それまでの20年間、事例などの細部を除き、その要素や思考の枠組みの普遍性を十分に確認していたので、自信をもって研修を実施することができました。

さらにそのフォローの場となったのが、各社の研究会。すでに後輩へバトンを託しましたが、先日コロナ禍の再開に向け、遠路打合せに駆けつけたN社の一人が、この図書を評価した濃縮の一言は、「車中で読み直したら、いま悩んでいることに対する基本的な考え方や行動は、すべて書いてありました。(経営書は)この一冊で十分ですね」然り！

### その2:『ネクスト・ソサイエティ』

一連のコラムに、最多の登場を願ったドラッカー。その著作群は、「社会論」と「マネジメント論」に二分されます。「マネジメントの父」として、これまで後者を主に引用してきましたが、ここでは「社会生態学者」としての前者に焦点を当てます。

それは我が大いなる反省に基づくもの。仕事柄しつつ「マネジメント論」を優先しがちでしたが、それらはいずれもその「社会論」の上に築かれたもの。また各地の火の見櫓に登り、広く「世界」を見渡して書かれたがゆえに、さまざまな知識ばかりでなく、実業を考える際に必要な「社会」の見方(視野、視座、視点など)を確認することができます。

前世紀末の『明日を支配するもの』で、ビジネスの前提が変わったことを指摘した泰斗が、新世紀に入り著した『ネクスト・ソサイエティ』。それは雇用やマネジメントの変化など、今後決して見落とすことができない「視点」一覧となっています。

☞参照 『三々な経営』『続・三々な経営』

0-23 経営人が学ぶABC

3-4 企業人の「三多」

Z-16～⑳ 私の推薦図書①～⑤

☞参照 『広告コピー』で考えるマネジメント

C-01～26 「はじめに」～「おまけ」

### その3:『マキアヴェッリ語録』

カウントダウンに入り毎号登場願っているのが、超現実主義者マキアヴェッリ。今年その著作と塩野七生女史の関連図書を読み直したのは、時代錯誤のロシア大統領のおかげ。それらには、今回の暴挙に類する事柄が溢れています。中でも『君主論』など「人間」の本質に関する不変の部分は、ガッテン！の連続。しかしそれらとは逆の意思決定や行動をして失敗を重ねているところを見ると、どうやら彼はその忠実な生徒でないようです。

もっともそのすべてを鵜呑みにすれば、墓穴を掘るのは必定。特に科学技術の発達で劇的に進歩した兵器と情報通信を考えれば、その『戦略論』は絶えず見直し、書き換えられなければなりません。

またそれは私たちが関わる事業も同様で、自分の組織がいかに優れたシナリオに基づいて行動しても、相手がそれを上回れば、それまで。理想と現実の狭間で起きる揺れ動きが、いまほど迅速、頻繁かつ複雑化した時代はなかったでしょう。そんなとき、塩野女史の労作『マキアヴェッリ語録』(新潮文庫)を上回る実業手引書は見当たりません。

最後に、ミドルの皆さんが最も彼に見習うべきことは、カミがすべてを決めるのではなく、運命の半分は自分たちで何とかできるという信念。因みに彼の場合、カミ＝神。皆さんにとってはもちろん、カミ＝上(上層部、上司)です。お間違えなく！

2022年12月19日 実空